

八東穂集



後乃小角の言乃禁此林をふとの
岩屋りののひし多し智寶徳正
しちうやれまを古今集より
うめまのこれ子を法乃か子と
出れくま林乃本を根川
よの物
法をこくく行き僧乃言
ふのまのやまを為ね是助歌の

麓乃言をふのく初さ乃山け
くま松風をまくる昭乃古念の物
乃月をあめ教範乃中乃うを
良賢乃じうの河のとはな
すく徳者乃け出此はわく
和身のるをさくよせし
あけくよつと物にわ
乃あまの和歌乃るれら

とわらぬ世にきこふかたしと
乃少くもくろく 晚翠堂乃桂枝枯田
の門人乃福堂をとおつはわくよ
徳もれ徳名のあら穂をも拾い入
て 雲をき都らぬく 八木穂
名はくもくろくはあまのこ
神乃さくもくろくはあまのこ
と乃色君をさくもくろくはあまのこ

とまひしと乃らぬ
國家乃整馬をいふ
か乃らぬと乃らぬ
あまのこと乃陀乃
神乃らぬと乃らぬ
あまのこ乃らぬ
乃らぬと乃らぬ
乃らぬと乃らぬ

こころよふあやうくあつて
せきとく 延寶八年二月廿五日
りおきとくしつりしつり

八東穂集發句題春上中下

元日 試筆 弓戎 年徳練

付元方 門松 付饅頭 饅頭 餅 繩 蓬萊

付舟 肴 種長

掛期 鏡餅 付雜煮 大服

屠蘇酒 忌衣始 付良小袖 祝月 付 大節月

恙開 弓始 飢初 付 松 擗 舩 祭初

讀初 付 舎始 賣初 初多

曹星

四方祥

多春泉付

冰樣

玉球打

羽子突

化糖文

水鏡

初芝居

總引

人目

付福 白子節

子目

卯杖

龙交長

御忌

冰解

春雪付

霞

梅

柳

鴛

雲雀

雉子

海扇

燕

春雪

蛙

蝶

新能

涅槃會

莖菜

土筆

蕨

野老

種漬付
種府

返田

茶槁付
新茶

花

付待花火燈台 目前花
花軍 法花 花流

花凡

椽

付家椽 山椽 被屋椽 鬼椽 姥椽
熊谷椽 伊勢椽 若賢象 江戸椽

温電椽

系椽 緋椽 旁各 石行椽

上巳付
餅

鳥合

山吹

躑躅

藤

利木花

海棠

椿花

辛夷花

八味春公

目録

沉下花 小采花 木蓮花 去草

御守拭 順象入 春月 永日

去夜 春雨 楊柳 柳鏡

猫壽魚 康角落 青約 青時鳥

雀子 紙考 雜春 三月尽

雀子

八東穂集各句春之上

元目

筆やかたふり奇書と腰り老の云

未子吟

某旦ハ一天四海に人百万句

秋田下榊集
忠雅

奇口りしむるるるまや天下皆

同安方氏
春む

麻りらるや宗道役乃花れ云

同野代住
昌治

紫のうの煤やうくぬくと約の云

京住
善林

三門物や並へはくしく関東統

羽列仙住
友信

系くやもの思ひとくう白母の云

京住
一加

れそめん祇園清水乃花の云

季の吟

ろくしきさうりり人花れ花の云

秋田野代住
女妹

こふすせく麻や朱骨むの云

京住
友静

味晴つさうり七十八日じ花れ云

江戸住
似春

めらりあるや法本一尺の花れ云

秋田野代住
親房

二度あや智あふそえ乃花の云

同住宮城氏
通志

大子にじらるるやむ妹乃春

秋田下榊集
仙室

月人一口はえんさんやみれ花

秋田野代住

元重

娘一たに今初やおころる花れ去

羽列山代住

心素

谷金衣御使ふとわひく宿る去

小村代

湖春

四十九うかりゆい去

秋田野代住

桂葉

五十雀や我し一うせ花れ兄

九十一うかりゆい去

羽列山代住

祖母

とれり妻や小町うらふさして八川妹

子代う返木後く越人老う去

朱吟

鳩れ杖はらりとく立やさうの去

秋田野代住

三耀

ふらふらくならりたりく去に又

大坂

梅翁

老う枝去やうんと又十鈴河

秋田野代住

親光

いふふくおさやうらふ法けあ去

大坂

玖巴

依保姫ハ初羽う御るじあれ去

秋田山下

直秋

道しる世や文武別けさう去

同野代住

安正

火輝う人夫念深かり使は去

京住

拓友

世ハ扇ふらかり人やうらふの去

羽列山代住

重旨

校也や内々いふといふ人なり
秋田野代住 葉外

系といふやけさ嘆ふる花れ
仙小角 貞利

御代も春梅かひ人太目付
二夜 湖春

なんなく英盤をよしてはる
京住 成林

海より元より日本第一世東の
奥列南郡住 正貞

若うまやも代もや代より礼
京住 飲應

吸く琥珀も万葉と呼せり
秋田野代住 眠松

銀の物や玉はく家ほ代れ
宗栄

おさゆりもりも花れ
大改神宮氏 政之

鏡とさうもいと玉人世う若
京東田氏 正盛

と若う世や目もくも陰浪水の
小村氏 栞葉

高山や春風うらり御代の
秋田太々住 正立

形名や羽の生る色御代れ
梅雪

金うあう山もいと玉れ
京 如風

御代やまや事も貴人下万氏
日 可全

何と家門もいとびくも無名
仙湯次住 重七目

天下地小通カつて一様のも

野別於念氏 全彦

師繩やせしゆつら茶乃祿の云

園世本氏 定光

世界よれ十方且那寺の云

野別於念氏 存的

わらむとくじやまの口号

野代住 竹房

天れたや一間ひらき空方此云

野代住 武珍

ちりり急こ紙得とく云

秋田野代住 成吉

年次よるのつりして念此云

之後本代住 桂葉

高きつらとくかこくけと物ま

宗園

立やまこれハ袴も泳と云ん

京 眠松

年男己や春夜の川用入

野代住 由盛之

高き本ハ河よりもゆき安ふ

野代住 得友

じりり世せ年次とるも念

野代住 延子

朝暮やまうひらねく時鳥

之政 由平

ぬかりまらえ目り

去ハる念本ハたはたふの本履ハ

系打井氏 重次

門まはをさやおさうりあ方

野代住 津光

鹿はくまのうまをわのれま 常楽氏 春丸

鹿妻やまの東をれ八を専 野代氏 女蝶

立やまのあんな事なう百を専 梅翁

秋田山下梅翁氏忠雄の家の子

由彦追加

萬世のまや延寶七九ろ 拙業

試筆

中初やまの白くむくむれま 秋田梅翁氏 候水

笑の奇しとらひまの世くまを専 野代中氏 三耀

中初やまの系う花れ白ひま 秋田中氏 南羽

中初やまの貫うくうまを専 京 友辭

試筆やまのせうまを専 京住 行休

世の芳白くまのあんな 野代中氏 成吉

百貫のあまの字は試筆れ白 京中月氏 千春

試筆まのあまの字は 仙臺にて住 貞治

中初やまのあまの字は 野代住 清吉

新編

六

新ひ奇かろく色あはぬり筆始 野村住 万葉

書初乃現れ海や和奇乃浦 秋田大之住 成芳

事初や始奇し兆借ら乃去 仙小角之 政次

事初や々ふうく之百六十字 三羅息 半十

去初や即代とあはゆり冬字教 秋田大之住 玄智

去初や延室七の字り日 野代住存尔 政友

又書やけし書初乃えの欄 同氏 長徳

又書乃くく明かのく書ま小 同字野氏 万太

筆れ筆のくく色書まれ礼後小 羽川湯次 清原

筆始とく色ハ多くくくく 海川白住 信房

事初や書り代亦ふり 秋田住 不必

去初乃文字川くくく 秋田住 津貞

去初の文字や書く山鳥鳥 大政住 助音

去初や先くく事宿の去 野代住 宗房

去初く色丁るり年始 秋田 南朝

今朝立く書やく及く 秋田梅津氏 淡水

八

二

年少日やあつたむらさき色のよ 田終行

あ戎

長し褒長は合点なりあり戎 留塚下

安撫し三や騰れ白む所夷 原長合点 真政

とてい夷ふ衣やゆつりあふ 京 棠也

えりや流うくむしやあ戎 三井也 静之

年かるといふしる免うあ戎 城下 宗四

えりかこむれおしむれあ戎 秋畷下 辰服

年徳神 付え方

多徳とまきこむれあ戎 野代利生 為心

人間の水はみあるとえ方 秋田大澤氏 伝

門表 付飾表 飾竹 綳繩

りくはくく維の門柳そ門の和 野代小玉氏 重吉

立所やあられふ松うらやせ山 畷 宣秋

門松や写し繪うらやせ 秋更 女静

立く移る書やふとせと不老門 子代知

かいらり松菅家よ徳とあつるさり 野代住 成辰

かいらり世や来らるくわり取卓 日小玉介 重友

かいらり書や糸糸集のいあ一の受 秋田栗原氏 時入

かいらりの弁やあつた松り 羽列翁 友英

かいらりのうらふ髪やかいらり松 秋田園田氏 重勝

かいらり書や針う始れはあひ 野代住 信言

かいらり所ハふ代り書原通り 秋田南朝 南朝

己と午れあひより青十傍松 秋田雅彦 雅彦

かいらり行のそのみれ来 秋田 時入

かいらり書もいん 秋田 文彦

かいらり鞆 秋田 俊海

かいらりおいは 京孝氏 松

かいらり今 仙北角 貞春

かいらり 秋田 貞春

かいらり 秋田 貞春

かいらり 秋田 貞春

かいらり 秋田 貞春

かいらり 秋田 貞春

かいらり 秋田 貞春

かいらり 秋田 貞春

かいらり 秋田 貞春

草子茶や巻山とくしり代の去
蓬菜のからりもびり鬼野老

野代住 親光
勢川田住 未

金山の盛とくしり代

金山の口より春やおき蓬菜

大坂住 林安

しり代もたや吾妻はくしり代

神代住 葵外

ひこつり穂長引髪小後原

京幸氏 名松

掛く祝魚扁周其代り去

野代住 好秀

掛朝よ波り志めしり代

多利氏 可合

刈田村田秋田り穂小穂長

桂葉

鏡餅 付雜煮大服

目れちやふ落しく殿よ温餅

野代住 女縣

うら白や餅の鏡の雪と波

可合

君く代や氏し雜煮と約赤例

大坂木系氏 宗田

大少くや花書とくしり代茶碗

秋田早氏 清弘

くしりのや穂小大服茶潤散

目代住 暉治

大少くう茶船や穂小雜波ん

大坂早氏 成林

屠蘇酒

万八や少そ福ふ身以年此救 大坂住 小貞

子とこれ故越てやそにえひと 野代住 俊徳

云の介れ樂あやとそに榮啓期 日守氏 重吉

とそ酒や無よ寄て身と下 秋田 仙家

ゆそ珠まくりとそとそ祝ひ月 野代 重吉

美衣始 付美少神

老ふまじしあもれとそ美衣始 柳谷氏 重吉

美少神小書やゆれ石た 秋田森氏 政成

あそとそや美少神とゆひ百 日津原氏 美衣

ままとそや美少神 野代内院 栄友

世の昔え花やみれや美少神 日守氏 湖雲

祝月 甘太郎月

小友あや大友の世祝ひ月 日守氏 通志

見海橋と美よりとそとそまのま

橋の美と名をり祝ひ月 季吟

了る世に松の葉くわむし後ひ月 新野氏住 俊満

敷れりや二万の里一人後ひ月 奥羽南部住 秀将

一年の花の兒御よ大高月 仙湯氏住 家重

菘開

米柳けりひく世あろく菘ひひ 野代 通志

仰祝飲と儀敷くろそ菘開 奥羽南部住 重澄

後ふの逢うあろく人菘ひひ 秋田藤氏 政成

弓始

文王く身とふれぬや弓始 秋田藤下 一不

楓初 付松栢子

うらみ初わく面白の葉もあ 同山方氏 赤豆

善毎乃次身めくくくひ初 日赤氏 盛以

唄初や目初くくくみれ夫卓葉 同小野氏 守久

大坊と松葉並くくく松栢子 京 卜全

船葉初

葉初ハ一葉ハ子般くく 野代住 三耀

讀初

よ初や幸甚くそとくん

羽列酒屋
吟

會初

初云や文藝に此じ宿乃梅

湖春

賣初

賣初や買人あれと月と

秋田中野
三

初夏

初夏れわふの付ねきたる星

野代大園
充

唱星

鳥れ白や明く唱今星草毛

桂葉

四方辨

ちり勢や面白く宵月四方ぬ

野代辨合
志

めりりり今もや四方ふの初

桂葉

立春 付水

六日 立春

立春や六日能辨れあふ春

友聲

大坂よりく

あ水よらんくらの石は龍垣

後前森
撞成

わ水よらんくらの石は龍垣

江戸の石
去札

らりきまをちりり

あ水やそ軒めらび練の云

樹葉

氷様

かろくせれおほん様へのりて

文靜

氷れ根茶海平一もの道より

系
氷風

いそらりりりりりりりり

今朝よりぬい十の氷のたか

樹葉

玉速打

総そやも老といもてて玉

季吟

ふりくやあまそり書れ門

羽子突
武珠

梅うや先うらん玉速打

友靜

羽子突

はらみれ棟よりあふ家小

松井氏
存重

かり羽子や友とすり旅むごりあり 江戸住 仙凡

化粧文

化粧文や又雪肌かき世と借縄 貞列南住 正正
宵ふささし今かろうお化粧文 加列北住 薰煙
きらきらさひくや薨つるく 櫻葉

水祝

くはぬまおれおまき水あを 秀列南住 水徳
妹やたのむ身さかなうと水祝 静 赤菱

思ひつゝぬまもやんろ水あを 秋田住 家元
後若駕や面目すくく水あを 野代住 俊徳

初芝居

花のふらほらめりや初芝居 泉寺月氏 子
おろし海ふれひめそ初芝居 野代住 信言

総引

子と線よいと総引よやん子 秋田之和村氏 夏雲
神の総引よれとひく若る云 尾折か住 任風

人日付後わー

はじ神や家くしぬまの根もな 久保

か碑と割とらとんく

身とは先いさひきくしれわつふ 季冬

妻田野くろくかけしむあ葉あ 徳藩

七草い鳥たきくくわあか 元重

七草やいやくしつてつるさ 湖云

七草とくわくや天下一栂子 英元

地水火風くくみ味ありみまやふ 光成

仙家くくく余そむの春もやふ 貞吉

もえあるや祇王くくひ佛の身 虚路

佛の身は佛ふいさくく霞の下 槿流

印塔や音筒くくくくくく 重湿

短板くくくあや柳よに管葉 吉之

みちくくく肩やくまら木葉葉 家重

云の雲のゆや付くくくひとふ 淡水

仙亦取氏

秋田

淡水

仙亦取氏

秋田

貞吉

虚路

槿流

重湿

吉之

家重

淡水

生春上

くたちれくくくくくくくくくくくく

松後塔

元光

くたちれくくくくくくくくくくくく

母代大綱氏

経亮

くたちれくくくくくくくくくくくく

秋田

清弘

くたちれくくくくくくくくくくくく

松後塔

植葉

くたちれくくくくくくくくくくくく

三保

くたちれくくくくくくくくくくくく

木末吟

くたちれくくくくくくくくくくくく

御書

くたちれくくくくくくくくくくくく

松後塔

三信

白馬節

庭よりつるきと白き花のさき

野代大綱氏

信長

子目

娘まは子目つあそひかうか

同大綱氏

寛吉

引あふやくまのさきと娘うき

正立

木男や川子あそひと娘少雲

秋田大綱氏

寛久

菖菫あそひ子目よ娘少松

信列大綱氏

不春

身祝ひより引息はうきと母あね

松後塔

茂長

生春上

二

海雲とくふひくひや子日崎

奥列南郊
幽果

卯杖

うさこしととかくまをふりて

尾列
任風

手と目ハ對乃卯杖ふりて

幽果

たみ長

是ハ鳥煙りともじやた迷丁

湖云

たみもふりてあふまや

桂葉

御忌

御忌乃所化やそれあふりて

野代
成吉

御忌より立度やゆりて

桂葉

氷氣

氷霜く風乃手あへぬ入江

野代
成吉

氷氣くほそ谷川や砂後の帯

松坂庄
美女

春雪 付妙書

風前此物おれや去れ雪

留
仙室

厨子やあつた書やびり乃常伝

少蝶

身佛もや ぶ来す 面自 仙よりて 忠信

消沙る 岩や 中身 摩磨佛 江別寺主氏 勝信

餅雪と とうらや 消る日乃 嵐 秋果約年 松嵐

蠟燭う 舎津乃 山れ 岩をくれ 大夜 宗固

産

風の身い 山と 一おもと 産小 秋山房氏 春を

鬼の体おほ ぶ産や かくれよ 日民氏 桂哉

春のみと くりたむ 産や 葉も袋 奥列鳥居往 清沢

産もれ ころり とうら 葉子な 信列鳥居往 種成

左野山 腰れ 産や 葛さく 海 秋山房氏 重光

腰きり 産ハ やうら 羽とり 水 紀列 守久

海ふ雪や 産の きのれ のりた 水 秋田 後海

目も ころり 花よ 産と 綿歩障 日か敷氏 直秋

笛ちの 音や 産れ 海の 浪くら 好計

風の 身い 産と ころり 泡浦 桂葉



Small, illegible handwritten text or markings on the left edge of the left page.

Small, illegible handwritten text or markings on the right edge of the right page.

八束穂集交句春之中

梅

燒燼う火くもと梅く春れ霜

秋田東食
閑信

四本ふ英真なり

見えずくた梅れ立枝う流氷の河

正立

梅れ花や匂く香野の一言

伊戸
和松

梅は氏淡水友真なり

二つとなくこいもあや二梅

桂葉

立花よ

考の志くとやそく人梅の志ん 湖春

梅く考の法よ

二月れ霜あふもに流ぬ梅の風

李吟

梅月や入と流花とねしん

服部住
永智

氏中あく真なり

根せ一川枝咲多く八雲の梅

忠雄

梅は氏れ四方あく真なり

竹よりくふ梅の方よりくふ
桂葉

哲也のまのまのの祇蘇れ紅梅と

春日阜一曉炉もゆへ梅は色
季吟

一口とあはたり

春色と白ふふ梅竹はそや
湖春

万本は花の司うらうらん梅
成芳

銅鹿かひくや霜帯つらん梅
好信

徒梅れまら名やけり交る情
友心

梅うえいふふやうとふりらら
定重

鏡梅れらうや落あり花守
幸渡

小菊持やうらうらうと花梅
勝田

らう花とらんく道せう梅法味
方秀

たりえうらう雪のうらやま梅
巫吉

多このひまら花蒼やちり花袋
栄久

短冊もぬえ本とく付りま
貞幸

君と香や風吹くく梅
三信

同許内氏

同許内氏

比内扇田住

本そと内氏

同泉氏

秋田根倉氏

野代住

秋東鴨氏

若列山田住

同許内氏

飛梅乃白ひやまきれ神者炉

秋田氏 長女

冠梅の花やまきふ奇の作

二子 長女

花白くは梅く先立花は

秋田氏 桂葉

花梅よくのりてや鳥井花

秋田氏 種成

追善

花と世おもは花の兄者人

秋田氏 一葉

まうさうらむし

目とくや名に書ふけり花の兄

角波 貞吉

乃心人れ目の佛もあき梅

野代住 盛三

いふ交と見ゆり佛あき梅

秋田氏 泰貞

火とともやらんこの作あき梅

野代住 政右

あき梅ふり人梅樂の花余

秋田氏 光定

梅津氏忠雄友子白身初

忠を以て

春れよに立枝やんしの梅の花

桂葉

柳

膏藥うすまろく白ふ移る柳陰 野代佳 俊能

あけれ公の園や柳うけ 秋田藤氏 不其

お葉屋と清水流る柳陰 務列 三保

大坂ま清水万句い

佛像ろあくく月北不柳陰 桂紫

柳も花れ瀧凡の親母名 羽列散住 未光

南守親世とんふあや柳髪 淡列住 正花

木れつるもろ月く人目く柳け 秋田青木氏 五斗

氣力なき柳や風の入りく 京守氏 若魚

ひさし人れ疎来ろしや葉柳 徳保氏 光天

併花れ種やさそひく葉柳 野代 俊能

知もさろる喜やいと絶ぬ葉柳 同小玉氏 重吉

系柳はじくハ風のもくろホ 三信

風ももや柳の系成よりひり 奥列田氏 政香

柳より鳥れとすりくろ結よ

鳥羽玉のよし川をいあや系柳 季吟

鶯ハ弁此中ハささくらト

野代 清吉

とろ声に鳴鶯や弁編後

角波住 重道

鶯と蛙やうさうかかろ

秋田 盛以

人來とハ誅さしれりうまの表

秋田 眞秋

忠雄友真行

子尋わろ陰もやうひとまん見

桂葉

桂心竹や先鶯とささくら

秋田 三祐

梅ハ竹よしのきさうひと所

秋田 充幹

梅ハさうひとさうらうひとものみ

野代住 宗栄

梅ハ較ふじうろ源氏う今衣も

江戸 和松

かへりしか梅ハ鶯ハたささくら

秋田 湖春

やさうさうひとさうらう梅のみ

秋田 清安

鶯やじろさうさう花ハほほけ経

秋田 一若

冷とさう鳥ハさうらう竹林ち

秋田 貞幸

鶯のうさうさうやいろく今前地

秋田 友之

うひ敷さうさうや比唄雲林院

秋田 清次

新編中

ありきりともく鳴きやふひえ秋田松樹氏
春松

正定真形

鶯よいつか節うしむる下季吟

鶯れ口さとしん南部太田氏の安休集
幽采

三谷何ししむく

鶯や花と三谷うお屋うり江戸
梅友

鶯れあやや妙法上人け谷野代
正光

縁者り火ともさと花うりむひ鳥越中三好氏
清信

鶯れうら香おのり伽羅か
桂葉

雲雀

かんきしそあうや似る雲雀節秋田住
眞秋

吹やいたうしめれやけり雲雀節肥後八代住
久継

雲雀少く鳴あう節に似るわり
桂葉

雛子

野鳥ハ雛も念ふかくれ馬系比内住
南朝

けいりあれのひらう雛のこゑ
家元

返局

まはるのよこあやう一ひな文字

角波木春氏

師英

春うすもともやなう言一ひな文字

野代任

如負

一はらひおろあうる局や八文字

同大園氏

少藤

とふ局れも一ひな文字のゆきも

長別

経亮

先陰う矢文のそととと返局

秋田郡氏

貞幸

花うゆる局字に付よう紙

同

風誰

局陣や破まてくゆるまはる空

晴子

白局や付るまに抄とまはる書

秋田郡氏

淡水

局ハ花うゆるまはるゆりう家

江戸川氏

信重

ゆまはう一ハ八合律か局

三徳

尹長具形うり

ハ八返局みまはるハ青一ゆき

桂紫

燕

よのう巣やけけくうる局と燕子様

三徳

春鳥

梅は忠雅の泊野野

旅宿へ来りて

花を振る鳥ハゆけよ心腹

桂葉

蛙

波を殺蛙の帯はよやしの

秋白房氏 泰賢

蛙のあゝ虫もくろ御奇也

秋白房氏 意縁

奇くくかゝるくくく本奇也

秋白房氏 貞幸

蛙くく若沙ハ奇くくく

山田茂木氏 定清

あゝじやさゝくくく青かゝ

秋白房氏 子胤

かゝくあゝや一文不知の尾く

秋白房氏 嘉用

軍こみじ蛙や水よあゝさしの

秋白房氏 嘉文

あまの命いろむくくく軍よあ

京中如氏 及甫

伴海成をた軍とくくあ赤く

桂葉

蝶

かゝ蝶よこましく蝶や胡蝶帯

野代信房氏 親房

おゝ心花よこましくや陰の帯

秋白房氏 松嵐

舞あそび身はゆかてふ家そとふ
秋田 雨信

花ももふてふ海棠くくふ木
三宅 可夕

安曇に流きくふてふ飛燕木
大宅 為時

見とれく自とつふ葉ぬてふ
角後 重凡

ゆくりあふめ蝶男蝶や葉車
野代 女蝶

榎木屋の花くふてふふてふ
野代 通尚

わのふちや花くふてふ今乃解心
横手 直

鷗草下く流ちくふてふふてふ
桂

新能

かほもろや伽羅と新能衣装
野代 後能

かきもろや新能能くふてふ
尾別 凭

甲樂や七門付くふてふ新能
大坂 一清

切くく今世たふてふ新能
桂

涅槃舎

別てあふてふてふぬもあふてふ
秋田 可悦

涅槃舎やふてふあ佛ふてふ舎利
桂

ひーんあそひく

今涅槃をいふはあそひく

湖春

るをいふは現をいふ涅槃像

尚交

以心向ふ天らくはあそひ

一以

かりの母佛もいふはあそひ

親房

絵れ具もいふはあそひ

正立

りくはあそひ

改利

志やうといふはあそひ

光文

眩とけ枕いふはあそひ

行油

くをいふは沙羅樹中れあそひ

清忠

祢とん法や洞なりいふはあそひ

治房

あんと玉といふはあそひ

三重

祢とんまや御法れ花の三月令

桂紫

董

御室焼うは誤識せしはあそひ

改古

おれ筆もいふはあそひ

代重

海保

三

不ふわーれお座まゝ真形よ

野越ハるしやうしらの董ふ

桂紫

土筆

山法師とほじや寺地れきほむ

皆栗氏
目雲

土筆ほじよふあやらじと

角彼志氏
貞好

冬草う蛛ろ糸むほりくし

徳成善住
栄吉

灰書ともしら焼ゆあつてし

仙好善氏
友治

通玄院友近名具あり

ねほじや臥写ろの向等つ花

桂紫

蕨

山岨の蕨指の毛う初とらひ

今付住
夏秋

わろてふふと枕さころひひ

教賢住
勝花

蕨もやびえあせふころる若れ仲

三玉住
正次

蕨もにぬきふあやらうらふ

角彼住
正勝

香汁や蕨もあつぬも洗水

角彼住
人也

もとせと蕨やあとなんふ

桂紫

野老

中とあつてはほつとやり及雲下

野代名同氏
好鳥

垢おとちあおあそりこれ鬼神と

秋田自名氏
不可

山口よほほほほとこちほくらん

市部志遠氏
東治

あつとこい流んこひをこころ

盛屋任大畏
幽果

種漬 付種前

塙糸くあひつりく

硯水いそりつ種り一所ふ

桂菜

きんすく鹿のきまぐや萩の種

尾別
崔菓

返田

新田鶴くく

何とせとむや新田れまの化

江戸
蝶子

菜橋付新菜

懐四く

淡い消し首の思ふ新菜

全氏住
由秋

えや摘や名案とあつと三百行

桂菜

花は月前に結ばる花軍

忠雄家のつらゆか三

白くや枝りまらぬ花の下

秋田梅津氏

淡水

結や弁の心花のあや綿

徳島木氏

知胡

はまのろ敷白ふらふら花の念

全長源氏

湖去

人へは縁成るら花の夢

秋田源氏

由秋

花ふらふとえ葉とては花の世

同第氏

初心

花よきよ自ら花の世に花

同第氏

風誰

花の芳しき花の世に花

文成住

一平

花や花の心花の世に花

野代住

後能

花の真の心

弁書ふし花の世に花

桂葉

花の心花の世に花

有信

花の心花の世に花

友合

花の心花の世に花

同第住

安正

花よほし〜〜〜〜〜

湯沢住氏 公徳

上野下とみ〜〜〜

白子住 忠虎

とり坂〜〜〜

正立

花よ目〜〜〜

羽外住 季吟

腰後〜〜〜

秋田山方氏 貞直

盲目も〜〜〜

貞直

三線よ〜〜〜

葛川住 季吟

花見も〜〜〜

三好

〜〜〜

秋田住 厚秋

花見風〜〜〜

同大住 季吟

色見〜〜〜

同扇田住 定重

〜〜〜

桂葉

花見〜〜〜

美〜〜〜

秋田 湖美

山乃花〜〜〜

秋田 松嵐

赤雲〜〜〜

秋田 一吟

替急後氏

花より来るとんころり人や羽めけ鳥

閑信

さぬさぬにけりとも花れん金小

仙住係 治貞

老りくや花よりさき世のゆとりし

角とく住 白好

誰うも御一糸くし花乃事

中代氏 成吉

十文字やけ花垣や結まろ

替田氏 正之

唄いころや花より一枝れ花の底

同今村氏 好信

守くまあや志いかりねと花れ底

津丹住 三重

香いらんへし金も花集と花の底

秋田由氏 茂昭

居よりいかに死といき可也花れ底

名護全住 六友

下いえや身よふと花れ

碧列 三保

系よ人きり花んひり山

南部住 正立

花んえんやあぬ別の鳥乃事

越加

妻れ目ハ長し短し花乃時

秋田納氏 松嵐

系のむんあ系あうり中さうと

桂葉

上系のは道とろろ

花の類より何るや本れ目の塩乃飯

蜂三

八巻

十一

もせう一野一やあゆめ花衣

伊丹住 竹油

花衣きくくせうるふう一野

秋田竹田氏 光政

うつら音にせんなく情一花衣

松坂住 三徳

人あふ花うあむく鞠の庭

酒田住 潮風

身ふそとあむくや花れ新法し

三保

心あふいふ世とあじし花の下

三徳

何料やふろ弱一花のこも

伊丹住 龜丸

多指流一とく

世盛や花一秋一とく十三代

湖春

守れちや云々乃花の志ん

仙居住 勝美

雨はめくやおつあうあふれ口

山根住 未定

花の只ふくまろくあやうりみ水

秋田住 秋長

ぬか一花一とく

妻雨一東家やうむ花の口

秋田住 平年

花やふ種一味のあめう下

同片畧氏 奇悦

ぬやあう一とく花れ紐

仙居住 友治

花や紐付乃あひほく世の末へ 角波佳 政次

花の紐とくもなる留る雨のあ 山形佳 心索

花より雨たのむや地力なれ寺 角波佳 仰英

月前むとらふますと

いふよ何のあはぬふ月也む 秋田方氏 泰む

月と花がむらむら奇もふ 同栗木氏 時入

月よ花よね人問りあそむ 松後佳 友己

月花のあはまきあつ身よ下る臣 松後佳 三好

月むやよふくらあはれ月へ山 秋田 松嵐

とらむ新かろく人く奥行よ

自今以後や花月の交花れ友 季吟

憂世なり月よ村雲花よ魚白 桂紫

十巻れつらり

見よ花の八重九重より十れ巻 大津佳 湖春

下陰り酔さめをさし花乃巻 大津佳 一以

月よりかためさほ花や花の巻女 秋田佳 桂哉

花の巻女

花よりわれ素くせむの雪ひら

桂葉

法華のついでに

似我蝶の自家偈れあまの法の花

越前新保住
秀白

木よりよのくさや法乃花のみ

秋田聖氏
一若

貞家追悼

死となをく洞や法れ花乃雨

純列
一入

云々

花より人や蠟やとたり法れ夜

保友

法乃花何と種とくうと御堂

文徳住
国之

作礼而去ふありとえびや法の花

桂葉

一枝なりふあり花とふお僧あふ

海法住
均友

古寺の花とらふと

花のつやや素めついらぬ障れ多

市部住
重質

朽花いふまうくく酒棧魚

野代小公氏
成吉

短冊はらうくくけ也花つと

小浜川越氏
今武

陰よりほ陽ひもや花軍

仙小角川
了有

見ぬ人やら強敵の花とさ 桂雲

花籠

青蓮院印の自筆此稿の法

と流りくゝ苗彦

群仙やうき花の跡 治休系山秋氏

月の中一の佛や花の跡不動 一交山取住

こいよひやうほりくゝ家花の跡 吉友勢利山住

花記

起る花や日教とかく人奇 眞秋秋田住

山利生よ花のやとよ雨乃交 正利勢利山住

坊屋くもやくおりの能指作 治法勢利山住

ぬきりや花のようつ鶏鞍橋 之貫勢利山住

火焼花

奇人や十字火ととと花の窓 貞幸勢利山住

火もともやさふうら花の燈 眞秋

木れ年ハ花れ火とととをくらふ 政成秋田住

火とさしと花と舞氣と流しと

大坂三三氏 一清

花と火とさしとや狐橋花の山

秋田氏 長盛

かゝりくゝと火とさしとだに方連家

秋田氏 武

花と火とさしとさしとあつと咲

野代氏 風雅

美雨の火とさしと花のうわや水

野代氏 清吉

火とさしとや花のうわの胸の内

桂紫

花

花とさしとさしとさしとさしとさしと

野代氏 親房

花とさしとさしとさしとさしとさしと

信丹氏 竹油

嫁と姑とさしとさしとさしとさしと

義前 種成

短冊のあつと花のさしとさしと

信丹氏 一吟

遠山のさしとさしとさしとさしと

酒田氏 湖雲

咲とあつと花のさしとさしとさしと

酒田氏 吟

花とさしとさしとさしとさしとさしと

秋田氏 家妻

りさしとさしとさしとさしとさしと

秋田氏 首

両中これ花とさしと

暖らるや可不可一隙乃花の西 秋田の秋田氏 光智

建仁寺浴室のふとりのふとく

浴室へ塔と足樹乃花らりぬ 桂葉

様

宿りりくちりる道へ負人様町 秋田山政氏 三保

花れ組じともや羽織さくく色 秋田山政氏 春實

搦戸や花のふともと瓦灯口 秋田山政氏 三宣

二月草虫ももとも時や東園子 秋田山政氏 可吟

短冊や花様田れ鳥ねと 流末 女藤

見後でハ柳様や又雲乃紋 秋田山政氏 種成

花のひもしびともや羽織様色 秋田山政氏 春實

風の手に涙とらるるや去野紙 秋田山政氏 齋軒

四方れ花や土農之高れ家様 奥川南光氏 松葉

家様かやうらハ蝶乃ともへんか 秋田山政氏 泉式

家様さ寸花生や屋形船 秋田山政氏 万太

ちる肉をいほく夜家ゆら 秋田山政氏 元幹

風はくち葉しとこまよふ家梅 角梅住本
 山梅さうらゝ花乃 峰ふ 師英
 日地やまきくか入知や山梅 野代今合氏
 枕う陰や那那乃 菱身念 松坂住
 獲しりとも風はこまよふ 秋田
 寫乃奇くひくもや及身念 奥列
 悉皆言いゆは梅れ木末と 秋田
 桂葉 方秀

彼岸梅

貞室翁一七の追悼梅吟

美事ハ皆好ハ人梅ニミヤリ 季吟

見梅 舟此梅

筆ゆかやま習うららこ梅 秋田野代住
 花れ見うし月身なりらこ梅 藤前住
 花の下ふよりのや三門乃見梅 角梅住
 りこ梅花れけらるや美身御茶 酒江住
 もやく暖ハおとふ飛うしら梅 秋田今合氏
 子代

巽卦乃去ハ海ノりし橋

奥列那佳
彦將

記先ノりし子孫やまゝこそ

仙角夜佳
定安

款れあふりしとや花見此橋

秋田代良
政保

山美れ先祖のまゝ此橋

仙信院
良信

交はりしとせき寺の此橋

太ふり佳
忠

焼橋とせりし此白比立尼

桂紫

熊谷橋

熊谷やれそり馬乃家橋

秋田野代佳
少勝

熊谷やれそり家流に花の枝

秋田派下
忠雄

熊谷れ花乃人やそ道心

同
南朝

熊谷の花見やそ下此谷

同
嘉用

伴勢橋

花の根りかつし此橋

秋田野代佳
三耀

咲らりや村れおる此世橋

角夜佳
貞利

祓道れ橋事ノ開ぬ此世橋

江別公徳
有信

神木や下界れ地ノ此世橋

野代山美氏
成吉

交まらば花の寸さやいせ橋 八云小玉氏 継蒲

そこのとれ見入りたりいせ橋 秋田下 南朝

神交り雨く火くもと 伴瓊橋 仙湯氏住 光枝

普賢象

普賢象入りくふ毛ぬきくは 秋田下 閑信

ちり流や流ぬきくけく普賢象 江別今住住 勝信

普賢象橋ハ鼻くあみから 桂窓

江戸橋

江戸橋かろくく雲く上野小 秋田野代住 忠正

内蔵左京亮殿殿と招き流す

あ芳ゆくくえまうて

花く象やくくくく 李吟

知忠院上野色くくく江橋く 正立

江戸橋花れ流やくく 野代住 昌治

恒電橋

恒くゆれ花のありく 勢列中村氏 清安

系橋

系ししるめんるの橋りか

風うもに花やもゆんれ系橋

花の查や人と猶れ月系橋

秋田下

桂成

仙角俊佳

政信

筑前

種成

緋橋

火橋やかこもれるふハ神考家

火橋ははらりやいもく花屋園

火橋と見えしいひをま今斗

秋田下か初

松風

別今次任

貞之

角破佳吉

政次

芳谷

花八重いもくちるさきり谷

あけ橋

かいら敷りちるやあけ橋を

たけいもくちるハあけ橋ハ

秋田野代任

親房

仙橋自任

重略

墨深橋

墨深やあまはらりる家橋

墨深れ花うかさらやあま子

秋田下

亮輔

松橋佳吉

三後

ひんじまやう雲深橋花つゝ

秋田野野氏 重信

雲深や右硯のり名匂花盤

山根住村野氏 友英

午伸の洞てふまゝ雲深橋

野代住 女傑

雲深れ花の盤や筆のり

角根氏 正行

梅とひ橋そつゝと雲深橋

桂泉

揚貴地橋村岡橋 雲井橋人丸橋

後くわくと筆のりあり橋水

角根住 正立

揚貴地やうゝ氣味のり花のり

森下

揚貴地れ病後う花れあゝ魚

苗穂食氏 經道

見とれと目とすふらり橋

角根あな氏 貞利

雲井橋水がと雲れは流し

秋田下 南朝

ふらと雲れ花のり人丸つゝ

角根山氏 重道

船とれみりゝに咲ふ 米橋

秋田橋九氏 家毒

大橋

神前くまやう拍のり橋

仙住 昌長

弟く雲雲木にらんまや大橋

少株

蓮孫

八十八

十八

花のくハ牛一ふ鞠とけま孫

野代住 正吉

呼出れ花の白紙よと孫

同 三耀

とともと火にかさるゝと孫

蘇赤野代住 三貫

雨あしともしこひはつと孫

野代住 正次

花まき一日やりま孫

蘇赤

ま孫 乞やいひま孫

桂宗

八十八

八束穗集發句春之下

上巳 付夢以干
鳥合離遊

かく枕れ家やなほりて酒泉部 野代坐氏

乾乃卦と月日れとくうきに候か 尾列柳氏 未辭子

青柳のかけくもや目つ三高目 季吟

くふやの八奥や嘆き抱のむ 三信

盃と下戸と巴り〜れ流那 三信

枕れ酒よ幸一雨〜り内花見 季吟

曲水や氣もさう〜り小盃 大波ろり氏 一清

現く酒やく〜三目ら友枕のえん 仙小住松氏 友治

白枕や藤れ色り〜源氏酒 野代佳中氏 三耀

もらわらや夢さ〜り〜れ秋 秋思下上氏 捨言

ま〜り〜つ〜き〜そ〜妻れ蓬餅 東 可全

枕尻や〜と〜酒の〜め〜りの日 野代佳 元際

ほ〜るや〜も〜り〜く〜も〜色餅と〜き〜 野代佳 重吉

餅や〜り〜り花や〜れ〜の枕の 野代佳 桂葉

松れ家や夕の霞乃の汐干復 秋田海下 犬蝶

蛤や極干よこゆり仲の石 秋田海下 栄久

樽れ着し夕の極干をうらむん 加列全法住 正立

以干とや夕の三日の言いつ灘 仙住赤及氏 可得

おり路しかくハ新馬合 野代住 光成

勝負乃二字や合とる鳥れ泣 河列全津住 三耀

枕ひわふ之ゆり合れ言ひわ 野代住 勝信

らりれ言ひや夕の夕の離む 野代住 竹霧

山吹

山吹れ垣根よりわらや金花猫 秋田海下 宜秋

山吹や夕の物丸花れは 野代住 通忠

歎冬ハ風乃あや夕の言ふ 山形住 泉武

山吹れあや金釵玉かけ 桂葉

躑躅

岩叩も色ゆるけしれ火打石 仙住源 治貞

打無火乃あや夕の言ふ 女藤

よせ纏れ枝やうらみれ墨にじ

野代佳保系氏

咲花ふおもひは身や併りじ

江列柳川佳

花の色や一ある二赤大つし

野代佳

時鳥鳴ぬ山路の白けく

羽列湯次佳

鬼灯うらな代くくろく唄りじ

目角鉾庄

花そちらり終ハ緑青岩にじ

勢列山田佳

藤

風とつらみ岩うら浪やうらり夜

野代佳宮城氏

有原れ立とあやうきあうらね

同氏 吉次

羨嘆く衣れ棚やまこ草

同 俊能

羨浪やのれぬくありと松う傍

秋田下 寸入

羨うふりわら膏菜のれ脂

新保佳 秀白

羨浪や花の末くらぬものや

松住松牛氏 家重

若ほりやみきわらうねといくらま

松島下 臥雲

松脂うけつくとしれぬ羨人衣

江列安母氏 母

風と入れ袋戸もふ羨れたふ

勢列下 桂哉

柳の上野花や下谷うらら花 野代長次氏

根より向う花とや岩にうらら花 秋田下 守久

風たきにあたりうらら花 京 三徳

との花や根をこやあれむうら 海津住 貞怒

寺の庭ふきすんじといふあれ家 長久

松のまゝるりうらら月やあれ丸 江戸 女蝶

着くうら月れおんせうあれの柳 江戸 得友

家れ紋うららあらしあはら草 長中 良長

纏冊や日道たうらうらあ 田舎 閑心

あれわや初まふうらあれの浪 桂葉

梨花

う梨の花のあらしやいとあ 勢別山集氏 三思

梨も一枚雨と帯てや白のこ 夏秋

月てかき書てとるなれあ盛 桂葉

海棠

海棠や花の二粒と一穂 仙崎住 貞活

牡丹の葉

海棠花の末らや 藤刀 正作
らややとくや 大海棠の末ら 桂葉

椿

むまうりまの

花のあはれとてよきやいせ 桂 一入

舎儀佳三平氏

花よとくあはれとてよきやいせ 桂 元貞

新保佳

谷川れとくあはれとてよきやいせ 桂 保歩

野代佳

花のあはれとてよきやいせ 桂 通尚

咲さ石さけ玉なすくハの海 桂 三保

花そ他者守武とてよきやいせ 桂 桂葉

辛夷

なんとうあふさりふれあふ 一昌

野代佳

沉丁

有印方追若くし 桂香の傳

以後詠物真なり

花よれとてよきやいせ 桂葉 桂葉

小豆花

目小はくや白井疎れ小豆花 林田下 養老

木蓮花

代り一度咲や越後れ木蓮花 林田下 養老

春草

そし地獄を野り何れも鬼筋 若列の保佳 治世

ちり心かこ目もこや心んり 徳陽大住 友治

ほちふふ家高たぬ婦々萩 林田下 桂哉

たんほや弟川弟ふ弟の物 山根住 泉三

見心人れ氣とほうもり較糸 秋良内住 家亮

御身杖

佛法とらうりもや御身杖 野代住 安之

佛くこいひもや御身杖 同 三耀

今も目も十九市家の御身杖 同 安静

頃家文

はくく頃家文もや頃家文 同 三保

花と安雲より起るこころんを 七 女蝶

春月

落花れは只計ふ下の家少く

花らうとくふれ大將や月獨 季吟

秋田味下曲鹿亭のありし具利小

歌と曲く樂と方にあり去れ月 桂葉

灯れ歌の四方とくふれ月 三信

橋はくふ月やおぼれあまの巻 三猿

月おし月かたさめれ海月流 京河合氏 秀純

本多あつと玉みくふおぼれ月 桂葉

永日

心海を永く目もや縁翳れ頭 歌住 泉式

去れ日ありせまうこまの首足山 歌住 関之

海去れ根と永く目ありや下しこ 不真 留柳律氏

去の目やとまれ尾よ露れあり 女蝶

日れうくとち果ての歌や尾去鳥 桂葉

去秋

去秋のやまの雲深らるる水

宗金氏 秀門

去雨

月花れ中一ふらさすぬ秋ふ

信陽氏住 重旨

去雨く木れ月や開く醫王山

信別浄寺 臨誓

栴網

秋魚也栴れ肉海らるる網

奥別南水 長意

釣糸系柳り花やさるる網

令次住 由秋

網やく栴かうく糸れ町

加別松住 友信

いふくふをらるる花がまぬ栴網

三保

柳籠

釣針やうをせんくく柳り人

三保

猫書あ恋

猫れ書やあふくくらひくく書

野代住 昌治

書あうくく猫の月や秋這星

令次住 友琴

かつくくくくや恋くく猫の文

桂葉

麻角落

猿沃や麻丸落あせり角片ひ

桂葉

去駒

去駒れりやかりも深草野

南朝

花のこゝろ初去駒やうゝと思

正徳

去号腕 付雀巢 雀子

去しけく貝化りなせ海ささ巢

三徳

去ハ程もふとありの雀の巢

三全

子雀や行とくるはく三四足

而部住 幽采

くぼりや竹林く 雀れ子

角住 可交

紙書

さし形やいゝとさすいゝの憾

流亦住 種成

とけ風雲れ通路やうりかり

秋田住 成

同じふ雲れ浪さやいゝあかり

野代住 政古

花のそゝ嵐嬉々 為賦懐

秋田住 正行

為賦懐初やそゝく 雲乃波

野代住 好秀

雑春

必風来りしとぞれとさうらひく

御後候いささけにねもまの夏 季吟

楽助やお参りしとぞれとさうらひく 任風

さそふ水はあつととも物言ひ 一清

茶のうきくからや来れ花盛 本吉

魁柄の陰りさくはゆきお丹が 長女

和奇と巫女のはりしくさうらひ

かよひのや糸の百首れおの浦 季吟

三月尽

初まよふとくは宿まのせふ 政成

楊子こころにさしあやも涙来のま 久治

たつと今まははははははははははは 三保

とくし總し針さそまぬみすく船 貞怒

鳥の雲に地老の集り今より 桂葉

